

様式3

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和6年度第3回相模原市文化財保護審議会		
事務局 (担当課)		文化財課 電話042-769-8371 (直通)		
開催日時		令和7年3月20日(水) 10時00分～12時00分		
開催場所		相模原市役所本庁舎 会議室棟第1会議室		
出席者	委員	10人(別紙のとおり)		
	その他			
	事務局	5人(生涯学習部長 他4人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		1 相模原市文化財保存活用地域計画の答申について 2 その他		

## 議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり

### 議題 1 相模原市文化財保存活用地域計画について

事務局から説明を行った後、質疑応答を行った。

(内川委員) 1-10ページの地形図は、協議会(注:令和7年3月17日開催)の時はよく見えていなかったが、これはよいと思う。

(山崎委員) 2-3ページ、3-9ページの種別「民話・伝説・伝承」だが、「民話」には昔話も伝説も含まれるので、表現を改めてほしい。

(事務局) 修正させていただく。

(萩谷委員) 1-19ページに「相模野台地を一望する」と書かれているが、富士相模川泥流の堆積物があり洪水で浸かるところなので一望はできない。表現に工夫を。

(事務局) 表現を変えさせていただく。

(浜田委員) 序-1ページ「戦後は都市近郊の市街地整備が進み」は「戦後は近郊都市として市街地整備が進み」、また1-25ページ「首都圏近郊都市」は「首都圏の近郊都市」、4-7ページ「博物館準備室調査」は「博物館準備調査」、6-22ページ「両者を統合した畑地灌漑事業」は「戦後の畑地灌漑事業は」がそれぞれ適切な表現である。また近代水道と近代畑地灌漑事業はおそらく無関係なので、表の当該部分は修正したほうがよいと思う。

(事務局) いずれも修正する。

(鹿野委員) 1-10ページの地区名図の日連と若柳の間、与瀬の下の部分に空白の区切られた部分があるが、これは飛び地なのか。

(事務局) 調べているのだが、今のところ分かっていない。ダムになる前に集落があったと思われる。

(神崎委員) 1-10ページの地区名図で「しわ(あ)らし」と書かれているが、「すわ(あ)らし」の間違いでは。

(事務局) 誤字であるため修正する。

(鹿野委員) 6-21ページ、「近代の文化遺産」は、6-22ページの表の中に「近現代」という言葉があるため統一したほうがいいのではないかと。

(事務局) 「近代の文化遺産」と「近代化遺産」、「現代」はそれぞれ違う用語なので、整理して検討させていただく。

(浜田委員) 「近代化の文化遺産」なら矛盾は生じないと思う。また6-22~23ページの表の23~25番は戦後なので「現代」ではないかと。

(事務局) 修正を検討させていただく。

(海老澤委員) 1-24ページでは中野監視哨、青根監視哨が「保存されています」と書かれているが、津久井町史編さんに際し調査した限りでは、保存されているというよりは放置されている印象である。今後保存していくという意気込みを示しているのだと思うが、正しく言えば「残されている」ではないか。

(事務局) 表現を変更する。

(鹿野委員) 「ホームページ」という言葉だが、日本では一般的に使われているものの、正しくは「ウェブサイト」である。NHKでも分かりやすさを優先してアナウンサー現行が「ホームページ」となっているが、正しくは「ウェブサイト」であるとの見解とのことである。

(事務局) 確認して改める。

(浜田委員) 資料編12ページの「参考文献」だが、これはこの計画を作成するために使った文献という解釈なのか、あるいはすべてを扱っているのか。博物館準備室の調査報告書の多くが抜けてしまっているようだが。

(事務局) リスト化してデータは入っているが、印刷の際に漏れてしまった。修正する。

(浜田委員) 参考文献の一覧を持ってきたので、利用してほしい。

(事務局) 拝受する。

(神崎委員) ミシマサイコのような絶滅危惧種について触れることはしないのか。ミシマサイコは相模原市民の歌に「柴胡の原の昔より」と出てくるし、自生はしていなくても保存会が育成を図っている。また津久井大豆のように途絶えそうになったものを継承しているのも含め、自然遺産として取り上げる予定はないか。

(事務局) ミシマサイコについては1-8ページで相模原の地名を説明する部分で入れ込むことができるか検討したい。また1-12ページの産業のところでは津久井の組紐に触れているので、津久井の在来大豆の取り組みについても加筆したい。

(宮本委員) 文化財保護課の埋蔵文化財専門の学芸員が中心に作っているので歴史文化に偏っていて、自然史の専門家としては非常に物足りない。今残されている自然がどう残されたか、今後どう残していくのかに触れないと脆弱に思える。自然史にももっと目を向けて、今後どうしていくかを明記してほしい。

(山崎委員) 関連して、序-12ページで文化財調査報告書の年間刊行数の目標を5本としているが、学芸員4人が全員埋蔵文化財の専門であることを考えると、すべて埋蔵文化財の報告書しか出ないということか。

(事務局) そういうことではない。文化財保護課に所属している学芸員は全員埋蔵文化財が専門ではあるが、ケースバイケースで建築や民俗などのいろいろな専門家と共同して調査報告書を作成していく形になると考えている。

(鹿野委員) 調査報告書だが、調査してすぐ報告書を出すのは至難の業だと思う。基準としてはよいが、博物館や大学と連携することを明示してはどうか。

(事務局) そのスタンスであるので、表現を修正する。

(鹿野委員) 宮本委員の懸念である自然史について、不足や危機感を持っているということを表示したほうが良いのではないか。

(事務局) 3-1 ページに記載されている文化財の種類のうち、天然記念物は少ないという認識を持っている。今後天然記念物の指定等に向けて調査研究を進めていきたい。文言については書き方を修正する。

(宮本委員) この類型に含まれているという表現では理解できず、文字として表すべきである。市内には豊かな自然があるので、自然を守っていくという姿勢を示してほしい。」

(鹿野委員) 6-2 ページ以降の5つの歴史文化物語について、自然史の視点を持っていることが明らかになるよう表現していくのはどうか。

(事務局) 「歴史文化」という言葉の中には自然史も入っているのだが、「歴史文化」という言葉のイメージとして自然史が入らないものと捉えられてしまうかもしれない。自然史のことも加筆していただく。また、本市では総合計画のもと様々な部門別の計画を定めており、今回の地域計画は、その中の部門別の計画の一つである。市としては「水と緑の基本計画」「生物多様性戦略」という計画もあり、それら部門別計画同士で連携していくことになる。市としては自然についても施策を進めていくことをご理解いただきたい。

(山本委員) 審議会としては今後も自然も含め、文化財の指定について引き続き審議していきたい。

(事務局) 地域計画の今後の流れを説明する。来年度パブリックコメントを行い、庁内調整を経て文化庁や関係省庁と調整をしていく。

## 議題2 その他

市登録文化財の現状変更について事務局より説明を行った。調査を行った海老澤委員から以下の通り補足の説明があった。

(海老澤委員) 明治時代から建てられた陸軍の将校集会所は、陸軍の施設があればどこにでも建てられた基本的なタイプの建築であるが、戦後、軍用地が自衛隊の駐屯地やキャンパスや公園になり次々と壊されており、今では10棟程度しか残っていない。また明治時代からあるものだが、明治時代のものはこじんまりとしている。相模女子大学に残っているものは昭和に建てられた一番最後の時期のもので、規模も最大級である。時代的に華やかなものではなく質実剛健であり建物としての面白みはあまりないが、貴重であり非常に惜しい。しかし所有者の意向が最終的な判断材料となると考える。

以上

相模原市文化財保護審議会委員出欠席名簿

(令和7年3月20日開催)

No.	氏名	所属等	出欠席	備考
1	薄井 和男	中世美術史（彫刻） 元神奈川県立歴史博物館館長	欠席	
2	内川 隆志	日本考古学 國學院大學教授	出席	副会長
3	海老澤 模奈人	建築史（近代建築史） 東京工芸大学教授	出席	
4	鹿野 陽子	造園学（景観） 岐阜県立国際園芸アカデミー客員教授	出席	
5	神崎 直美	日本近世史 城西大学教授	出席	
6	中島 彩花	日本美術史 女子美術大学研究所特命助教	出席	
7	萩谷 宏	地球科学（地質学・岩石学・地球史） 東京都市大学理工学部自然科学科・准教授	出席	
8	浜田 弘明	人文地理学 桜美林大学教授	出席	
9	宮本 太	植物分類・生態学 大学院専攻主任 東京農業大学農学部生物資源学科	出席	
10	山崎 祐子	民俗学 一般財団法人宮本記念財団理事	出席	
11	山田 正法	郷土史 元相模湖町文化財保護委員	欠席	
12	山本 雅子	発生学、解剖学（動物） 麻布大学名誉教授	出席	会長

任期は令和6年10月1日から令和8年9月30日まで